

らい 来ぶらり 45

誘惑します！

図書館長（理学部教授） 片瀬 潔

女子プロテニスプレーヤーの伊達公子さんは全豪オープンでベスト4という成績をあげ、続く日本での試合が期待されたのですが、トーナメントの初戦で、しかもかなりランクが下位の相手にファイナルセットの最後の競り合いを取れずに敗退してしまいました。試合後の会見では、前日から胃痛で眠れなかったといっていました。実は私もテニストーナメントに出ると同じ症状によく似たものです。

これは、負けてはいけないというプレッシャーの典型的な例で、似たものに試験病というものがあります。試合の日、ひどいときにはその前日から、下痢をしたり胃痛・頭痛になったりするのに、試験が終わってしまうと何ともなくなるというものです。これらは絶対に大丈夫であるという自信があれば何でもありません。準備不足かなと思うなどの何らかの不安が増幅されてプレッシャーを感じ、ついには身体が防御本能を働かせて症状が出るのでしょう。これではせっかくのテニス、いや試験が楽しくなくなってしまう。試験やテニスに限らず、この症状が出るなら『真面目にやろうとしている自分を褒めてやりたい』という気持ちでリラックスすればよいのと思いますが、そう簡単には克服できないのがこの病気の特徴で、試合では絶対に勝つという自信がつくよう猛練習を

したり、メンタルトレーニングを取り入れたりします。それに比べると試験の方は、普段から勉強する習慣がついていれば胃など痛くならない！……と私は思いますが、これまた人によってはスポーツの猛練習以上に難しいようです。休講になったらカラオケへと出かけて、折角の時間とお金を無駄遣いしがちな誘惑に弱い人は、図書館にまず入るのが一番！本を借りなくても、なんとなく勉強したくなる雰囲気誘惑されてみて下さい。

ところで、この2年間の就職難は景気が回復すれば解消すると期待したいものですが、企業側は全体としては人を減らし続けて人件費等の固定費用の低減に努めることでしょう。どんどん解雇しながら、一方で新規採用を増やすはずがありません。おそら

く、今世紀中は買い手市場のまま推移することでしょう。企業が少数精鋭の社員でしか成り立たないというなら、よく勉強しているということが就職するための必須条件となるのは当然です。ただし、よく勉強しているというのは単に成績が良いということではなく、基礎学力があって、その上知的好奇心旺盛で、常に知識欲を満たそうと努めているということです。キャンパスがそのような学生であふれて欲しいと、大学図書館も今秋までには大改造をして誘惑します！



特集 新入生に贈る

図書館利用法

図書館を利用するのは、レポートや小論文を書くための資料探し、漢文や英文の日本語訳を探す、新聞や雑誌の書評欄で取り上げられていた本が読みたいので探す、あるいは、最新号の雑誌を読む等々、人それぞれに違います。ワンパターンの探し方で目的の違う資料を探すのは、いたずらに時間をかけるだけで、探し当てる事が出来なかった時の落胆は大きなものがあります。そこで最低限の資料の探し方をご紹介します。

ただし、図書館では1989年から図書情報を機械入力しましたので、機械検索だけでなくカード目録を使うことも忘れないで下さい。

○ 図書の探し方

*日本語の訳本(翻訳書)でギュンター・グラスの『ブリキの太鼓』を探してみます。まず作家名グラス(Grass)から探せますが、書名『ブリキの太鼓』から探しても出てきます。しかし、作品集・短編集や全集に収録されたものしかない場合は注記事項・内容といったところを見落とさないで下さい。そこに所収の作品名が記されています。

*18世紀のドイツについての資料を集めるな



ら、「18世紀」「ドイツ」「バロック」「生活」といったキーワードを入力し機械検索で導く方法があります。これですと「フェミニズム」「フランス革命」といった資料を探すのにも有効です。あるいは、分類項目でドイツの歴史資料が集まる「234」の所を見ていきます。

○ 新聞・雑誌の探し方

*カード目録で『学習院大学経済論集』と誌名(紙名)で探します。但し「人文論集」や「紀要」は大学名が付かない場合がありますし、『エコノミスト』『ユリイカ』などは「Economist」「Eureka」と原綴で探さなければなりません。が、図書館になくても研究室で所蔵しているものもわかります。開架図書室には、『世界』『文藝春秋』に始まって約400種類の雑誌が置いてあり、大学全体では9000種以上あります。(参考係 甲斐静子)

<先輩から…>



資料入手方法

太平天国運動について卒論を書いていた時に、太平天国が興った広西省桂平県の県志を見たいと

思った。『桂平県志』には①1768年に黄国顯が編纂した乾隆版、②1843年の黄体正・王維新の道光版、③1920年の程大璋の民国版がある。

しかし、いずれも学習院大学では所蔵していなかった。参考係の方に所蔵調査を依頼したり、自分でも国会図書館編『中国地方志総合目録』を引いてみた。①、②を所蔵する図書館は見つからなかったが、③については

1968年に台湾で影印されていて、それを東洋文庫、京都大学東洋学文献センター等が所蔵していることがわかった。

そこで、東洋文庫あてに大学図書館から紹介状を発行してもらい、それを持参して民国版『桂平県志』を閲覧させていただくことができた。また必要な本を本学で所蔵していない場合には、“購入希望”を出す方法もある。『桂平県志』のように古い史料は、現在購入できないが、『日本書籍総目録』に記載されている本ならば現在市販されているので、大学図書館に購入希望票を出してみるのも良いだろう。

(史学専攻M2年 大間知利尚)



利用上手になろう

効果的に大学図書館を利用するには、開架図書室と参考室は無視出来ません。開架図書の数は閉架図書の数に比べて圧倒的に少ないのですが、本を直接手に取って内容をチェック出来るので、探したい分野の中から自分にとって分かり易い物を短時間で見つける事が出来ます。参考室には、辞書・事典・年鑑・白書等の参考図書、広い机、落ち着いた雰囲気が有るにもかかわらずその存在は忘れられ勝ちで、いつもすいています。もしも試験期間中

に勉強をしたいのに、どこの閲覧室も自習室も満席という時には、この文章を思い出して下さい。参考室なら座れるかもしれません。

また、参考係の人は本についての情報をたくさん持っているので、探したい本があれば聞くと良いでしょう。図書館の人たちは自分が得をする訳でもないのに、利用者が本について質問すると、まるで喜んでいてかのように丁寧に教えてくれます。

学内には建物が幾つか新築され、学生の流れは自然にそちらへ行きますが、時間を上手に使って、試験勉強やレポート作成のために、大学図書館の利用上手になる事を勧めます。

(経営学科3年 常光紀行)

良縁

何げなしに足を運んでしまう図書館。

しかし、大学図書館ともなるとそこいらの図書館とはヒト味がう。理学部生である私は、理学部図書室、数学科図書室にお世話になることがどうしても多い。数式ガッチリのと和洋の専門書から毎月発表される横文字と数式の論文まで、難しいものが難しそうな顔をして雁首並べて待ってますが、そのアカデミックな雰囲気は、誰も自分が大学生であることを振り返るいい刺激となるでしょう。

暇な一日、大学図書館で端末を利用して参考文献巡りをするのも面白いかもしれませ

ん。端末が命じるままに他学部図書室へ行ってみるのは単調な大学生活に知的な刺激を加えてくれるかもしれません。普段何げなしに図書館に行きますが、端末を利用して本との良縁を探すのも人との良縁と同じくらい重要(?)ではないでしょうか。「どこかにいい本ないかしら?」「そうね、一度図書館情報サービスを受けてみたら。きっと良縁に恵まれるわよ」出会は図書館から……。

(数学科2年 加納 誠)



50分の至福

2限が終わった。凝った体を思い切り伸ばしながら、私は教室を出た。

時は4月。構内には、

新入生らしき女の子3人組が所在なさげに歩いている。彼女たちも、あと1か月もすれば、この大学の中で自分の場所を見付けていくのだろうな^あなどと、ババ臭いことを考える。

さて、何処でお昼を食べよう。空を見上げれば、春にふさわしく^{おぼろ}に霞に霞んだ^{かす}青空に、はげでなでたような白雲が一筋。なかなかの上天気だ。よし、図書館へ行こう。

駅前のデンマークで購入したクルミいりフランスパンと小岩井牛乳を持って、私は図書館の屋上に出る。カップルが2~3組いるが、臆してはならない。ズンズン進む。

屋上の一角に座り込むと、パンをガブリ、牛乳をゴクリ^{しばい}。暫くはガブガブのゴクゴクだ。ふと手を休めれば、木々を渡る風の音に乗って、小学校から歌声が聞こえてくる。太陽は辺りをとろけるように柔らかくしてしまう。猫の子のような伸びを一つ。ああ、おなか一杯。図書館で、歌舞伎雑誌でも読んで帰ろう。

次の日。天気は上々。また図書館が、フランスパンを持っておいでよと笑っている。

(^{お食事は屋上}だけに^{してネ!}) (日文学科3年 水澤雪子)

発端は昨年1月17日に逆上る。ハワイはオアフ島、建国王カメハメハ大王像近くのイオラニ宮殿を中心に、小さな事件が発生していた。ちょうど100年前にハワイ王朝が崩壊したその日を記念して行われた行事の開会にあたり、州の庁舎はアメリカ星条旗を降ろし、代わってハワイ州旗(旧ハワイ王国の国旗)を掲げた。国旗事件の始まりである。緊迫した空気の中、参加者は王朝最後の女王リリウオカラニの名曲「アロハ・オエ」に託して、ハワイ人としての主権回復を歌にした。日本の新聞も「目立つ民族主義高揚—ハワイ王朝転覆から100年—」とその緊張を伝えている。

折しも世に出た中嶋弓子氏の近著『ハワイ・さまよえる楽園—民族と国家の衝突—』は、大部470ページに及ぶ「米国文明同化から自己主張への歩み」(朝日新聞書評)の歴史書である。まずハワイ王朝の成立から終焉までを説き起こし、次いでハワイと深くかかわりを持ってきた日本とアメリカの関係について言及する。日本人移民の悲哀史や、真珠湾攻撃からアメリカ併合

ハワイ・さまよえる楽園



に至る経緯は、観光で浮かれる我々にとって、まことに手厳しい。しかし、著者の関心は単なる太平洋近現代史に止まらない。ハワイが実に多民族の社会であることを取り上げて、多様な文化がせめぎあい、アイデンティティが確立しないと指摘する。加えて、注目すべきは「ハワイアン・ルネサンス」とでも言おうか、新生ハワイへの模索を始める。すなわち、アメリカの事実上

の軍事介入によって、原住民の自治が失われ、ポリネシア系の文化が壊滅した事実から、100周年をきっかけにそれらを復権しようとする運動についての検証である。先住民意識の目覚め、文化・芸術・宗教などの新しいねりについて、斬新

な切り口が展開する。氏は、去年1年のハワイの動きをドキュメントで綴って、最終章を力強く結んだ。32才、若い新進女性ジャーナリスト、ほん身のレポート。

ともすれば「常夏の楽園」としてのイメージが先行するハワイ、しかし実は「さまよえる楽園」として、多くの偏見を覆すに十分足りるタイムリーな書物である。

<請求記号S 276-1> (和書係 霧島浩一)

お知らせ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。図書館では、これから始まる大学生活がより充実したものになるよう、みなさんのお手伝いをしたいと思っています。ご利用をお待ちしています。

- 開館時間 平日 8:50~18:30
土曜日 8:50~16:30
- 貸出冊数・期間 3冊、2週間(予約者

がいなければ2回まで延長可能)

長期休暇中は、冊数・期間ともに枠が広がります。

○大学院生を対象とする「図書館オリエンテーション」を次の日時で実施します。

4月13日(水)・14日(木) 15時~16時

ご希望の方は、どちらか都合のよい日を、2階カウンターに申し出てください。

来ぶらり No.45 1994年4月1日発行

発行責任者:片瀬 潔 編集委員:小林邦子 田村節子

学習院大学図書館 〒171 東京都豊島区目白1-5-1 ☎03(3986)0221